

平成 26 年度
仙台市図書館運営方針
仙台市図書館事業計画

教育局市民図書館

平成26年度仙台市図書館運営方針

図書館は、資料の収集・保存・提供を通して、市民の教養、調査研究、レクリエーション等に資することを目的とする施設であり、「知る権利」や「学ぶ権利」を保障し、生涯学習の機会を提供する施設として重要な役割を果たしている。

近年、少子高齢化、国際化、情報化の急激な進展に伴い、図書館を取り巻く環境は大きく変化し、図書館に対する市民のニーズも多様化してきている。

こうした状況のもと、平成24年3月にこれからの本市図書館に求められる図書館像、振興方策を盛り込んだ「仙台市図書館振興計画」を策定した。本計画は、平成24年度から28年度までの5年間を計画期間としている。

平成26年度は、「仙台市図書館振興計画」の3年目の年であり、これまでの事業実施に対する評価を踏まえ、さらなる取り組みを進めていく年度となる。本計画の具体的な事業計画となる「平成26年度仙台市図書館事業計画」に基づく施策を確実に実施していく。

仙台市図書館は、目指す図書館像「地域・市民に役立ち、共に成長を続ける図書館」の実現を図るため、仙台市図書館振興計画における次の4つの方向性に基づいた図書館サービスを提供していく。

- 1 地域や市民に役立つ図書館
- 2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館
- 3 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館
- 4 自らの変革を進める図書館

平成26年度仙台市図書館事業計画目次

方向性1 地域や市民に役立つ図書館

- (1) 課題解決に取り組む市民を応援します 1
 - 【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】
 - 【レファレンス機能の充実】
 - 【課題解決型情報支援サービスの充実】
 - 【地域の専門機関との連携】
- (2) 情報化社会の進展に合った情報提供の充実を進めます 1
 - 【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】
 - 【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービスの提供】
 - 【様々なネットワークへの参加・連携】
- (3) 地域の創造性の継承・発展に取り組みます 2
 - 【地域情報の蓄積・継承・発信】
 - 【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】
- (4) 「学都仙台」を活かして大学図書館等との地域連携を進めます 2
 - 【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】

方向性2 市民一人ひとりに利用しやすい図書館

- (1) 誰もが使いやすい図書館サービスをめざします 3
 - 【高齢者サービスの充実】
 - 【障害のある人へのサービスの充実】
 - 【外国人が使いやすいサービスの充実】
- (2) どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします 3
 - 【市民センターでの図書サービスの拡充】
 - 【移動図書館サービスの再編・整理】

方向性3 0歳から読書に親しめる読書文化を育む図書館

- (1)子どもの年齢に応じた図書サービスを提供します 4
 - 【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】
 - 【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】
- (2)障害のある子どもの状況に合った図書サービスを提供します 4
 - 【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】
 - 【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】
- (3)子どもの創造性を育む読書環境を支える輪を広げます 4
 - 【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】
 - 【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーターの育成】
- (4)子ども読書を進めるために家庭、地域、学校などとの連携を深めます 5
 - 【学校との連携の強化、協働による事業の充実】
 - 【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】
 - 【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

方向性4 自らの変革を進める図書館となるために

- (1)仙台市民の財産として資料の収集・保存を計画的に行います 6
 - 【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】
- (2)図書館像を共有して市民と共に図書館づくりを進めます 6
 - 【図書館サービスの広報、図書館像の共有】
 - 【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】
- (3)図書館資源を適正に配分し有効に活用します 6
 - 【システムやサービスのあり方の見直し】
 - 【ICタグの計画的な導入】
- (4)図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行います 6
 - 【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】
- (5)図書館職員の資質の向上に努めます 6
 - 【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】
 - 【専門性と経営能力を備えた職員の養成】

- 用語解説 7

施策 (1)課題解決に取り組む市民を応援します

平成26年度事業内容

【様々な課題解決に役立つ資料や情報の積極的な収集保存提供】

- ・選定会議・調整会議の開催により、様々な課題解決に役立つ資料の充実を図る。
- ・図書館資料(一般書、児童書、AV資料)を紹介する刊行物を継続して発行する。
- ・本のテーマ別展示を継続して行う。
- ・庁内外関係機関等を通じた東日本大震災関連資料や情報の収集と閲覧・貸出を継続して行う。
- ・3.11震災文庫※及び各館震災コーナーを継続して設置する。
- ・「としょかん・メディアテークフェスティバル」で東日本大震災関連資料の展示・広報を行う。
- ・国連防災世界会議※の開催に合わせて、東日本大震災関連資料や情報を積極的に発信する。

【レファレンス※機能の充実】

- ・レファレンスサービスの利用促進に向けレファレンス利用ガイドを作成・配布する。
- ・庁内外関係機関を通して専門分野に関する資料や情報を収集しレファレンスサービスに役立てる。
- ・国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステム※への参加を継続する。
- ・3.11震災文庫資料情報に係るホームページ掲載内容を充実する。
- ・収集・保存した震災関連資料の整理を進め、被災者等が必要とする情報に関するレファレンスサービスを実施する。
- ・レファレンス事例集を継続して作成・配布する。

【課題解決型情報支援サービスの充実】

- ・図書館ホームページのコンテンツ等の追加、見直しを行い、内容の充実を図る。

【地域の専門機関との連携】

- ・専門機関等と連携した情報展示コーナーを設置する。
- ・地域の専門機関と連携した市民向け講座・講演会、相談会を実施する。
- ・在仙の学術機関、民間企業、行政機関等に係る情報提供や相談窓口の紹介を行う。

施策 (2)情報化社会の進展に合った情報提供の充実を進めます

平成26年度事業内容

【電子情報の整備・充実 デジタル環境への対応】

- ・商用データベース※の利用促進を図るとともに計画的拡充を行う。
- ・図書館内のインターネット環境の整備に向けた調査・検討を行う。
- ・電子資料閲覧用機器を設置する。
- ・電子書籍閲覧・貸出を実施している他都市調査・検討を行う。

【紙媒体と電子媒体との両方に対応したハイブリッドレファレンスサービス※の提供】

- ・ホームページにレファレンス事例集を掲載する。
- ・国立国会図書館レファレンス協同データベース※へ事例の登録を行う。
- ・市民のためのデータベース等情報検索・活用講座を開催し普及を図る。

【様々なネットワークへの参加・連携】

- ・国立国会図書館総合目録ネットワーク※事業フォーラム、研修会等へ参加する。
- ・国立情報学研究所目録所在情報サービス※への参加について検討する。

施策	(3)地域の創造性の継承・発展に取り組みます
平成26年度事業内容	
【地域情報の蓄積・継承・発信】 ・多様な地域資料(DVD等も含む)を収集する。 ・デジタル化した和漢書のホームページでの公開について検討を行う。 【市民と共に進める、仙台に関する情報の発掘や発信】 ・仙台に関する情報の収集・集積、展示、ホームページによる発信を行う。 ・仙台に関する資料や情報のリスト、パスファインダー※を作成する。 ・仙台に本拠地を持つプロスポーツチームに関する情報の収集と展示コーナーの開設を継続して行う。	

施策	(4)「学都仙台」を活かして大学図書館等との地域連携を進めます
平成26年度事業内容	
【市内大学図書館との連携／市内専門研究機関等とのネットワークづくり】 ・大学図書館との相互貸借、複写等に関する連携の方策について検討する。 ・大学図書館と連携した事業を行う。	

施策 (1)誰もが使いやすい図書館サービスをめざします

平成26年度事業内容

【高齢者サービスの充実】

- ・選定会議、調整会議等で調整のうえ、大活字本資料※の充実を図る。
- ・高齢者にとって関心の高い分野をテーマとした資料展示や行事を実施する。
- ・拡大読書器の利用を図るため積極的な広報を行う。

【障害のある人へのサービスの充実】

- ・ホームページ等を通して、障害者サービスの積極的な広報を行う。
- ・デイジー(DAISY)資料※作成ボランティア養成講座を開催する。

【外国人が使いやすいサービスの充実】

- ・選定会議、調整会議等で調整のうえ、外国語資料の充実を図る。
- ・外国人向け図書館配布物等の充実を図る。
- ・外国人向け館内サイン等の作成について検討・実施する。

施策 (2)どこに住んでいても情報が身近に届くサービスの充実をめざします

平成26年度事業内容

【市民センターでの図書サービスの拡充】

- ・団体貸出等既存制度の活用による市民センター図書室への支援を強化する。
- ・図書ボランティア等を対象とした研修を実施する。

【移動図書館サービスの再編・整理】

- ・利用状況や復興公営住宅の整備状況等を勘案し巡回コースを再編する。

施策 (1)子どもの年齢に応じた図書サービスを提供します

平成26年度事業内容

【妊娠期の親や乳幼児とその親に対する読書支援の強化】

- ・乳幼児向けおはなし会等を継続して実施する。
- ・乳幼児及び保護者向け行事を継続して実施する。
- ・両親教室等の機会を活用した啓発事業の実施について関連部署と協議・検討する。
- ・乳幼児保護者向けブックリストの内容について検討する。

【小学生、中学生、高校生等年齢に応じた読書支援サービスの拡大】

- ・図書館で活動する中高生選書アドバイザー※によるおすすめの本の紹介などの情報発信を継続して行う。
- ・図書館ホームページ内に設置する中高生向けコンテンツの内容について検討する。
- ・図書館ホームページ内に本の感想等の掲載について検討する。
- ・小学校及び中学校の新1年生向け図書館利用案内を作成し配布する。
- ・高等学校新1年生向け図書館利用案内の内容について検討する。

施策 (2)障害のある子どもの状況に合った図書サービスを提供します

平成26年度事業内容

【障害のある子どもたちの読書を助ける資料の収集、機器の設置】

- ・触る絵本※や点字付き絵本、LLブック※等、障害のある子どもたちの読書活動の推進に向けた資料を継続して収集する。
- ・触る絵本等の関連資料所蔵リストの作成と、ホームページ等での公開を継続して行う。
- ・マルチメディアデイスリー(DAISY)※利用のための機器を継続して設置、供用する。

【市内特別支援学校等への資料貸出の充実】

- ・特別支援学校等のニーズにあった資料を収集し貸出用資料の充実を図る。
- ・市内特別支援学校の他、市立小・中学校の特別支援学級への案内と資料提供を行う。
- ・利用校に対するアンケート調査を実施し、調査結果の分析に基づく改善に取り組む。

施策 (3)子どもの創造性を育む読書環境を支える輪を広げます

平成26年度事業内容

【市内の保育所、幼稚園、児童館などの職員とボランティアの支援】

- ・「子ども読書支援パック※」や大型絵本等、おはなし会や行事等活動に必要な貸出用資料の充実と積極的な広報を行う。
- ・保育所等に対する除籍済資料の無償譲渡による資料の提供を行う。
- ・児童館等職員、ボランティアからの資料相談等へ積極的に対応する。
- ・児童館等主催の子ども読書に関する講座等へ図書館職員を派遣する。

【子供図書室等で活動する、中高生による図書館サポーター※の育成】

- ・中高生への読書支援を目的として、中高生による同世代に向けた読書情報チラシの作成と情報の発信を行う。

施策**(4)子ども読書を進めるために家庭、地域、学校などとの連携を深めます****平成26年度事業内容****【学校との連携の強化、協働による事業の充実】**

- ・パッケージ貸出※や学校貸出※のための資料の充実による貸出強化を図る。
- ・防災教育における震災関連資料の活用について関連部署と協議・検討する。
- ・公共図書館利用学習を継続して支援する。
- ・子どもの本の案内等の図書館発行物による学校への情報提供を継続して行う。
- ・市立小学校等に対する除籍済資料の無償譲渡を継続して行う。
- ・学校連携事業の利用状況調査及びアンケートを継続して実施し事業の充実を図る。
- ・図書館職員、ブックトーク※ボランティアによるブックトークを継続して実施する。
- ・ブックトークボランティアの養成講座、レベルアップ講座を継続して実施する。

【地域施設・ボランティアと連携・協働しての読書力向上】

- ・子ども読書支援パック等による、地域施設・ボランティア等に対する資料や情報の提供支援の強化を図る。
- ・職員やボランティアに対する研修・講座を実施する。
- ・ボランティアへの活動の場の提供と市民団体に関する情報の提供を積極的に行う。
- ・文庫活動支援のための貸出資料の充実と資料選定のための定期的な情報提供を行う。
- ・地域施設やボランティアとの連携、協働による子ども読書推進のための行事を実施する。

【子供図書室を核とした、子ども読書を進めるための連携】

- ・図書館全館において、春・秋の子ども読書フェスティバルを活用した、子どもの年齢に応じたおすすめ資料やテーマ別資料の企画展示による家庭・地域への情報の提供等を継続して実施する。
- ・子育て支援施設のびすく泉中央と連携した事業を継続して実施し図書館利用の拡大を図る。

方向性 4 自らの変革を進める図書館

施策	(1) 仙台市民の財産として資料の収集・保存を計画的に行います
平成26年度事業内容	
<p>【計画的な資料の収集、保存、活用／資料収蔵方針の作成と収蔵スペースの確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者ニーズを把握し、特定の分野に偏ることなく、公平性、有効性を考慮し、可能な限り幅広く資料を収集する。 ・書庫資料に係る除籍作業を計画的に実施する。 	

施策	(2) 図書館像を共有して市民と共に図書館づくりを進めます
平成26年度事業内容	
<p>【図書館サービスの広報、図書館像の共有】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マスコミ等へ積極的な広報を行う。 ・区民まつり、文化センターまつり等への参加により、図書館サービスについての情報を発信する。 ・ホームページでの図書館だよりの発信について検討する。 <p>【市民が参画する読書・情報活動の支援、市民との協働によるこれからの図書館づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館で活動するボランティアを対象とした研修を実施する。 ・ビブリオバトル※など市民との協働事業を実施する。 	

施策	(3) 図書館資源を適正に配分し有効に活用します
平成26年度事業内容	
<p>【システムやサービスのあり方の見直し】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館コンピュータシステム更新に向けた検討を行う。 ・図書館サービス評価を踏まえた業務の見直し・効率化へ取り組む。 ・若林図書館へ指定管理者制度を導入するため、指定管理者の公募、選定を行う。 <p>【ICタグ※の計画的な導入】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICタグ未導入館への導入について費用対効果を踏まえた検討を行う。 	

施策	(4) 図書館サービスの評価を行いながら図書館経営を行います
平成26年度事業内容	
<p>【新たな評価方法の導入／市民による評価や意見の活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館協議会による評価を取り入れた図書館サービス評価を継続実施する。 ・図書館全館で利用者向けアンケート調査、利用者懇談会を実施する。 	

施策	(5) 図書館職員の資質の向上に努めます
平成26年度事業内容	
<p>【障害者サービス、児童サービスなどのスキルアップ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障害者向けサービスに関する継続的・計画的な職員研修を実施する。他機関実施研修へ参加する。 ・児童サービスに関する専門的知識を身につけるための職員研修を実施する。他機関実施研修へ参加する。 <p>【専門性と経営能力を備えた職員の養成】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門機関等の実施する研修へ継続して参加する。 	

用語の解説(本文中の※を付した用語について50音順に掲載)

ICタグ

ICチップ(パッケージされた半導体集積回路)と小型アンテナを埋め込み、電波により情報の読み書きを行うことができる技術。容器等に入っている読み取りや書き換えも可能であるため、資料に貼付・入力することで、無断持ち出しの抑制や蔵書点検期間の短縮等が期待できる。

LLブック

知的障害や自閉症の人などに向けて、イラストや絵文字等を使って分かり易く読み易いように編集された本。LLとは、スウェーデン語のLätt Lästの略語で、「やさしく読める」という意味。

学校貸出

小・中学校向けに、教科指導等で活用できる本などを100冊まで貸出すること。

国立国会図書館総合目録ネットワーク

国立国会図書館による、県域を越えた公共図書館の和図書の総合目録ネットワーク。

国立国会図書館東日本大震災アーカイブ

国立国会図書館が総務省と協力して、国立国会図書館東日本大震災アーカイブシステムを構築したものの。国立国会図書館東日本アーカイブは関連機関と連携して震災の記録等を分担収拾・保存し、国内外に発信することを目的としている。

国立国会図書館レファレンス協同データベース

国立国会図書館が、全国の公共図書館・大学図書館・専門図書館等と協同で構築しているデータベース。一般の方々の情報探索、図書館員のレファレンス業務に役立つような情報を参加館が日々登録・更新・蓄積している。

国立情報学研究所目録所在情報サービス

国立情報学研究所が行っているサービスで、参加する図書館が所蔵する資料の書誌情報と所在情報をオンラインでデータベース化し、所在情報データベースを利用して、それぞれの図書館が自館で所蔵していない資料を相互に提供する「図書館間相互協力」を迅速に実施するもの。

国連防災世界会議

国際的な防災戦略について議論する国連主催の会議。第3回国連防災世界会議は、2015年3月14日(土)～18日(水)(予定)に仙台市で開催される。第1回(1994年:横浜)、第2回(2005年:神戸)の会議とも、日本で開催されている。東日本大震災の被災地である仙台市で第3回会議を開催することは、被災地の復興を世界に発信するとともに、防災に関する経験と知見を国際社会と共有し、国際貢献を行う重要な機会となる。

子ども読書支援パック

子供読書活動の推進に関わる活動を行っている施設、団体、個人向けに貸し出すため、絵本や紙芝居などを5～50点程度まとめたもの。

触る絵本

視覚障害児用の絵本で、触素材をページに貼り付けるなどして絵を構成し、絵が触って分かるようにしたもの。

3.11震災文庫

仙台市民図書館では、東日本大震災に係る被災状況について後世に伝えるとともに、震災からの復興や生活再建を支援するため、「3.11文庫」として、関連する様々な資料を収集し、閲覧、貸出を行っている。

商用データベース

データベースとは、事典や新聞記事など大量のデータを集めて整理・統合し、検索などをしやすくしたもの。企業などが開発・販売し、インターネット等で提供されるものが商用データベースであり、制作者によって常に管理・更新され信頼性が高い。

大活字本資料

一般に刊行されている図書の文字サイズでは読みにくい人のために、大きな活字で印刷された図書。

中高生選書アドバイザー

アドバイザーとして選書支援を行うことを通して、自らが積極的に図書館づくりに関わる中学生、高校生ボランティアのこと。

中高生による図書館サポーター

中学生、高校生への読書支援を目的として、同世代に向けた情報の発信を行う中学生、高校生ボランティアのこと。

デージー(DAISY)資料

視覚障害者や普通の印刷物を読むのが困難な人々のための、カセットに代わるデジタル録音図書。見出しからすぐに必要な情報が探せるなど、情報検索に優れている。

ハイブリッドレファレンスサービス

紙の図書資料のみではなく、電子資料やインターネット情報等、複数の手段で利用者が求める資料や情報を提供あるいは提供する手助けをするサービス。

パスファインダー

特定のトピックやテーマ(主題)に関する資料や情報を収集する際に、図書館が提供できる関連資料の探し方が一覧できる案内。

パッケージ貸出

小・中学校向けに、需要が高い資料(朝読書用パッケージ120冊、テーマ別パッケージ40冊)をまとめたパックを作り、申し込みに応じてパックごと貸出をすること。

ビブリオバトル

他の人にすすめたい本を紹介し合い、どの本が一番読みたくなったかを参加者が投票しチャンプ本を決める、「知的書評合戦」といわれるイベントのこと。

ブックトーク

あるテーマに沿って、さまざまな種類の本を順序だてて紹介すること。子どもと本をむすびつけるのに効果的な手法のひとつ。

マルチメディアデージー(DAISY)

音声に合わせて、その部分の文字や画像と一緒に画面に表示されるデジタル録音図書。音声のみのデージー(DAISY)よりわかりやすい。

レファレンス

利用者が求める資料や情報を提供あるいは提供する手助けをすること。レファレンスサービスとも言う。